

窪田委員（自民議連）

令和7年3月13日
教育長職務代理者答弁実録
（教育委員会）

（問）県立高校の在り方について

県立高校と市立高校の定員の在り方は、どのように決まっているのか、教育長に伺う。

また、昨今の高校無償化の議論を踏まえて、県立高校と市立高校の役割分担について、真剣に議論すべき時期であると考えますが、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

公立高等学校におきましては、地域の中学校等卒業者数の状況などを踏まえた適正な入学定員を設定することが必要であることから、広島市教育委員会とは、毎年度、学校が所在する地域の生徒数の増減や近年の入学者の状況などを共有し、協議を行った上で、設置者の権限におきまして入学定員を決定しているところでございます。

公立高校を取り巻く状況は、人口減少や産業構造の変化、最近では高校授業料実質無償化の動きなどもあり、大きく変化している状況の中にあって、県立と市立の高等学校の役割分担を更に明確にしていくことが必要であると考えております。

このため、県教育委員会といたしましては、「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」について様々な観点から検討を進める中で、高等学校を設置する広島市教育委員会等とそれぞれの高等学校の役割について、今後、しっかり議論してまいりたいと考えております。